



ボランティア・地域福祉活動に関することなら

えがお えたじま 応援センターへ

(江田島市社協ボランティアセンター)

しおかぜネット・ボランティア活動



「日常生活上の困りごと」を、ボランティア活動で応援します!

住み慣れたまちで暮らすために



ふれあい・いきいきサロン



「住民同士の交流の場」「地域のたまり場」を応援します!

被災者生活サポートボラネット



私たちが「応援」します!!

平常時から「災害時」に備えた関係づくりを応援します

その他、小地域福祉活動・福祉教育推進など



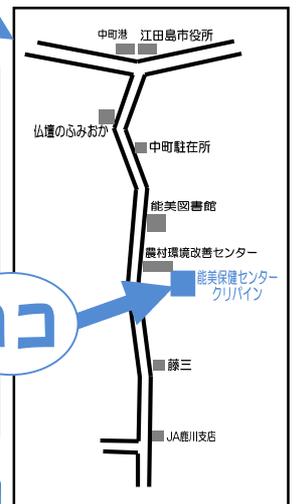
江田島市社会福祉協議会



少しの困りごとでも、お互いが助け合える地域を目指します!

「えがおえたじま応援センター」とは、江田島市社協ボランティアセンターの愛称です。いつまでも住み慣れた地域で生活するためには、公的なサービスだけでなく、ご近所さん同士の支えあいが必要になります。そのために私たちは、ボランティア活動、ふれあい・いきいきサロン活動など地域内で行われる様々な活動を通じて、みなさんの生活を応援しています。「地域内で活動したい」「誰かの支援がほしい」という方は、40-2210(社協地域福祉課)までご相談ください。

ココ



ご存じですか？
「お互いさま」の支えあい

～江田島市社協 住民参画型福祉サービス～



しおかぜネットキャラクター
「ハマちゃん」

しおかぜネット

「しおかぜネット」とは？

「誰かが手伝ってくれたら助かるのに・・・」という、日常生活上の「ちょっとした困りごと」を抱えている方に、応援センターに登録した協力者（しおかぜさん）を紹介し、一緒に活動することで解決に向けて取り組む活動です。

こんな事に困ってませんか？

- 家の中のお掃除
- 庭の草取り
- ゴミ捨てのお手伝い
- 買い物のお手伝い
- 外出付き添い
- 託児・見守り・声かけ
- 簡単な修理
- などなど・・・

ちょっと助けて

お手伝いを必要とする人
利用者さん



③お手伝い

ちょっと任せて

お手伝いをする人
しおかぜさん



①利用申し込み

②活動依頼

えがねたじま応援センター



40-2210

④利用料支払い
1時間あたり300円

⑤活動費支払い
1時間あたり600円

ココがポイント！



利用者は

**利用料
300円**

江田島市社協から

**赤い羽根共同募金等から
300円**

しおかぜさんには

**活動費
600円**

まずは、お電話ください

40-2210

「しおかぜネット」係まで

※お互いが「気兼ね」しないための有償の仕組みです。（基本はあくまでボランティア）

～地域みんなが心をつなぐ 地域のお茶の間～

じゃけん
ココが
心地ええ

ふれあい・いきいきサロン



ふれあいサロンキャラクター
「カンちゃん」

◆ふれあい・いきいきサロンが目指すもの

「ふれあい・いきいきサロン」が目指すもの・・・それは「支えあいのまちづくり」です。地域で生活する全ての世代が「ふれあい・いきいきサロン」に参加することで、顔見知りの輪が地域全体に広がっていきます。そして、それが日常的な交流となり、お互いの「困りごと」や「心配ごと」に気づけるような関係を持つことができれば、自然に地域内の「支えあい」へとつながっていくのでは？と考えています。



地域はサロンでつながる「大きな家族」！

サロンは江田島市内に65か所！！

常設型サロン「よりんさいや」もOPEN！



合言葉は「無理なく、気兼ねなく」

江田島市には 65 か所もサロンがあります。（ほぼ全ての地区で開催されています）
それぞれ工夫をこらし、参加するみなさんが楽しく、気兼ねなく過ごすことができるよう運営されています。



住民交流の場として期待されています

大柿町飛渡瀬地区に、常設型サロン「よりんさいや」がオープンしました。今のところは、毎週火曜日（10時から3時まで）の開催ですが、今後は開催日を増やしていき、将来的には毎日型の運営を目指しています。



ご存知ですか？

4月2日は「世界自閉症啓発デー」4月2日から8日までは「発達障害啓発週間」です。国連総会（平成19年12月18日開催）において、毎年4月2日を「世界自閉症啓発デー」とすることが決議され、全世界の人々に自閉症を理解してもらう取り組みが行われています。



どんな活動を行っているの？

世界自閉症啓発デーの4月2日から8日を発達障害啓発週間として、シンポジウムの開催や東京タワーのブルーライトアップ活動を行っています。自閉症をはじめとする発達障害について知り、理解して頂くことは、発達障害のある人だけでなく、誰もが幸せに暮らすことができる社会の実現にもつながります。

知ってもらいたいこと

自閉症を知っていますか～誤解されやすい自閉症～

脳の発達の仕方の違いから「他の人の気持ちや感情を理解すること」「言葉を適切に使うこと」「新しいことを学習すること」などが苦手であり、一般的な「常識」と思われることを身につけることも苦手です。このため、真面目に取り組んでいても、誤解されることがあります。また、自閉症のある人たちは、自分の感じたままに話し、行動することがあります。中には、感覚が敏感な人や記憶力が抜群な人もいます。このような、自閉症のある人たちの行動や態度の意味を理解していただき、愛情をもって支援して下さい。自閉症のある人たちは、周囲の愛情と支援を必要としています。

障害者生活支援センター4月の行事予定表

日時	行事	開催場所
17日(土)10時～16時	ぴあサポートサロン	ゆうゆう(自立支援センターあおぞら)
24日(土)10時～13時	ピア・トーク！	大柿老人福祉センター(2階)

※参加を希望される方や、お問い合わせは下記までご連絡下さい。

江田島市障害者生活支援センター

〒737-2295 江田島市大柿町大原505（江田島市役所大柿分庁舎2階）

電話 57-2215 ファックス 40-3573

E-mail: etajimasien@iris.ocn.ne.jp

～地域一丸で災害時にもささえあえるように～

災害にも
つよい
まちづくり

被災者生活サポートボラネット



応援センターキャラクター
「エータくん」

「被災者生活サポートボランティア活動」とは？

◆被災者生活サポートボランティア活動は、被災した地域・市民に寄り添いながら、その生活再建に向けた支援を行う活動です。

全国的には、災害ボランティア活動という名称で使われていますが、被災者の生活支援を第一に考え、「生活をサポートする」という幅広い視点にたち、江田島市社協では「被災者生活サポートボランティア活動」と呼びます。

ポイントは住民の暮らしをサポートしていくという視点



「瓦礫の撤去」だけでなく、「声かけ」や「安否確認」など



①日常から「顔の見える関係づくり」を推進

災害時のボランティア活動を円滑に進めるには、地域内の関係機関・各種団体が連携することが非常に重要になってきます。そこで、江田島市社協では、行政をはじめ自治会、民生委員、福祉施設等と協同して「江田島市被災者生活サポートボラネット推進会議」を設置し、普段から「災害時の助け合い」について協議する場を設けました。

②被災者生活サポートボランティア活動の「ルールづくり」

「江田島市被災者生活サポートボラネット推進会議」では、市内の関係機関・各種組織それぞれの役割分担を明確にし、災害発生時には情報を共有して、迅速な支援体制が整えられるよう「江田島市被災者生活サポートボラネット推進マニュアル」を作成しました。



③防災・減災に求められる「ヒトづくり」

平常時から定期的に防災・減災に関する研修会等を開催し、被災者生活サポートボランティア活動に関する啓発等を推進します。また、緊急を要する場合でもボランティア活動を調整できるよう、事前に活動希望者を登録した「災害ボランティアバンク」を設立し、臨機応変に対応できる体制を整備します。

4月心配ごと相談所ご案内

《開設時間 午後1時～3時30分》

相談員の皆さんが、日常生活の悩みごとや心配ごとの相談に応じて解決に努めます。
問題によっては関係機関の紹介もします。
相談所は市内のどこでもご自由にご利用できます。



4月5日(木)	4月12日(木)	4月19日(木)	4月26日(木)
江田島市 農村環境改善センター	大柿公民館	江田島市役所 沖美支所	江田島公民館

江田島市社会福祉協議会 えがお えたしま 応援センター

〒737-2302

広島県江田島市能美町鹿川2060番地（能美福祉センター内）

電話 (0823) 40-2210 fax (0823) 40-2502

